

気味にすると花芽がつきやすくなります。

九十月には再び水やり、施肥を開始し、その後自然に落葉したら室内に取り込みます。

●福寿草

福寿草も梅と同様、あらかじめ温度と湿度を与えて促成したものが使われています。

根は太く、長く、そして多いですが切り詰めると花が十分に咲かなくなるので、植え替える場合は大ぶりの深鉢に赤玉土（小粒）五、腐葉土三、桐生砂二の混合土に根の長いまま植え込みます。露地植えの場合は、排水が良く、有機質を多く含んだ場所、落葉樹の下（夏日陰・冬日なた）の西日の当たらない場所に植え込みます。

肥料は、緩効性化学肥料を与え、三五月に茂る葉を十分に育てるのが充実した花を咲かすポイントです。

●南天

寄せ植えに用いられるのは、三月上旬にタネ播きした小苗か、三

四月に挿し木した苗が使われています。地植えにすると大きくなりすぎるので、小鉢に川砂七、赤玉土三の混合土で植え付けます。十月に根切りを行うと葉が赤く色づきます。

●ヤブコウジ

葉の下に実をつけます。したがって、右の写真のヤブコウジの実は造りものです。（見えるでしょうか？）

鉢植えや地植えにする場合には、強い日差しや乾燥を嫌いますので裏庭の僅かに日の差す湿気の多い所を選んで植えて下さい。

ヤブコウジの本当の姿



今がみごろ

旬の花

正明 河江

福寿草

正月を飾るために花に、福寿草がありますが、この花は別名にも、元日草、朔日草、猷歳菊など正月の祝いにふさわしい名を持っており、旧暦では真正正銘、正月の花でした。



今の正月には、福寿草という丈夫な品種を促成したものが出回っていますが、白やオレンジ色の品種もあって、その気になれば四十種ほどは集めることができます。大流行した江戸期には百二十余種もの記録があり、そのほとんどが失われているのは残念です。

ジュソウの花は「悲しい思い出」とされていますので、花の色にはご注意ください。

贈答用としても多く使われる福寿草は、花言葉も「幸せを招く」として喜ばれています。花言葉の本場ヨーロッパでは、野獅子に殺された王子アドニス（アダム）の血と、それを悲しんだ、女神アフロディの涙から咲いた花として、赤いフク

福寿草の根は、漢方では強心剤としても利用されますが、強い毒性を有し、素人は決して用いてはいけません。もちろん、さわったくらは大丈夫。

寄せ植えでは、根を短く切っています。毎年咲かせたいなら、根を大切に、大きな鉢に植えておきましょう。

病室の暖炉のそばや福寿草

正岡子規